

<小粒のアンパンと純白のマシュマロ>

この10日ほどで近くの野辺や丘はすっかり新芽と若葉の色に染まってきました。ビオトープでは池もその周りも一層活気に満ちてきています。池の畔のグミの根もとには可愛らしいキノコ（名前は分かりません）が三つ四つと顔を出し、南の斜面にはユキモチソウがによっきりと姿を現しつぼみをつけています。つぼみは紫褐色の仏炎苞（ふつえんほう：アンスリウムの赤いところと同じ）に包まれた搗きたての真っ白な餅のようです。本当に真っ白。柔かで美味しそうなマシュマロにも見えません。



<キノコ、名前は分からない>

<ユキモチソウ>

<ぼくたちにも春>

ビオトープの5つある水溜まり（あまりに小さいので池とは呼ばないことにします）の2つ目の傍にはカキドオシが薄い青に紅紫の斑点のある花をつけています。これから5月にかけて、茎がどんどんと蔓状にのびて花を沢山つけるでしょう。垣根の隙間を突き抜けて成長する様子からこの名があり、垣根にあれば足元が賑やかになります。

池に棲む生き物たちも元気になってきました。メダカも結構いるようです。水面



<カキドオシ>



にはミズスマシのすいすいと動く姿がもう見られます。そのあたりで水面下のイグサに一休みしているのが左の写真の生き物です。モエビとモノアラガイでしょう。白いものはなにかの卵でしょうか。（文と写真：松本正勝）